

クビレヅタ 養 殖 試 験

兼 浜 安 信

1. 課題名 クビレヅタ養殖試験

2. 協力者

与那国町漁協養殖研究グループ、与那国町役場、
県水産試験場

3. 概況及び目的

与那国町漁協は沖縄県の最西端に位置し、カジ
キ曳縄と一本釣りの漁船漁業が主体である。

近年、漁船漁業単一経営から増養殖を取り入れ
た複合経営への気運が高まっていた。その手始め
として、平成5年度から海藻類の養殖の可能性を
探るためモズク、クビレヅタ等の予備調査が実施
された。平成6年度は予備調査の結果のもとに養
殖試験を実施した。

4. 材料と方法

平成6年5月18日水産試験場よりクビレヅタ母
藻20kgを搬送し、直径50cmの三段式のアンドンカ

ゴに葉状部と茎部を一握り程度の果物用のネット
に入れて、一段に四袋を四隅に動かないように結
着した。同様の方法で11籠準備し垂下養殖を行っ
た。垂下2カ月後には、葉状部が70cmにまで伸張
したため一部収穫した。

しかし、7月後半から8月にかけて相次ぐ台風
の襲来で養殖籠が流失してしまった。水試も母藻
が少なく試験を中断せざるをえなかった。

5. 問題点及び今後の課題

養殖漁場が西側の久部良沖の魚類養殖場周辺で
実施しているため、河川からの淡水の流入が全く
ないことから、塩分濃度が常に35‰と高めのせい
か、葉状部は伸びるものの籠全体への茎の拡がり
が見られないため増収が見込まれるか問題である。
金武湾での養殖結果によると、低比重化(25‰～
30‰)した海域ほど葉状部、茎とも生育がよいと
の報告もあり、今後漁場の選定が課題である。

